

## 天災と人災と・・・

相 田 浩

今年の中秋の名月は9月17日でしたが、生憎のお天気でした。平安貴族のあいだでは月を愛でる習慣であったようですが、庶民に広まってからは、穀物の収穫を感謝する意味も込められたそうです。子孫繁栄を象徴する里芋などがお供えされていたようです。私が子供の頃は、季節も秋がすみ涼しく、月見には団子とススキが定番の時期でした。しかしながら温暖化により9月中旬になっても真夏日の便りが聞かれます。

雪が解け、温かい風が吹き、桜が咲く春。じつとりと湿った梅雨を明けた後のカラッとした夏。日暮れが早くなるとともに涼しくなり、紅葉が美しくなる秋。そして寒さ厳しく、人々の往来を妨げるような豪雪の冬。これが新潟では当たり前の四季でした。今の子供達にはそのような故郷の四季の記憶は無いかも知れません。美しい新潟の四季は、夏の暴力的な暑さと豪雨や暴風、豪雪や暖冬の入り混じった冬によりとても複雑な季節感になったような気がします。さらに、日本全体が気候の激変や地震・風水害などで大きな被害を受けています。今年の元旦の能登地震は衝撃的でした。さらに追い打ちをかけた9月の豪雨被害。世の中が暗くなることばかりです。

国外では、ロシアのウクライナ侵略はいまだに終息せず、中東情勢は予断を許さない状況になってきています。これらの事象も相まって、石油・天然ガスなどが値上がりし、光熱費の上昇や、あらゆる物の物価上昇の影響が次第に大きくなってきています。

新潟県厚生連も、今年の診療報酬改定による減収と、光熱費や診療材料費の値上がりにより急激に運営が厳しくなりました。薬や診療に必要な機材・消耗品は軒並み値上がりし、10%の消費税も含めると数億単位の負担増になります。一方、患者さんへの請求には物価上昇分や消費税分は請求できません。また、各種のキャッシュレスの支払いでは病院が手数料を負担します。「今時なんで自動支

払い機を導入しない」というお叱りを受けます。しかしながら消費税や手数料などを含めた病院の負担額も億単位に達し、かなりの痛手です。また入院患者の減少が減収の大きな要因ですが、さらに高齢者医療に対する低評価もあげられます。高齢者が誤嚥性肺炎や尿路感染で体調を崩し入院管理となると、地域の病院としては一定の患者確保と収益になっていました。それが今般の診療報酬改定では、今までのような入院管理では病院は利益を生み出せない仕組みになっています。早々に慢性期を担当する病院へ転院にするか、自宅・施設などに退院していただくしかない状況となっています。さもないと次年度以降にDPC係数でペナルティを受け、大幅な減収になるかも知れません。でも域内で簡単にそのようなことができるはずもなく、高齢の入院患者を多く抱えています。このような状況は当院のみでなく、国内の多くの病院、ことに地方の総合病院にとって死活問題になっています。新潟県では医師や看護師が不足しているのに、経営危機により雇うことができない状況になっていきます。これが全国的な問題だとすれば、地方の地域医療が崩壊する前に、何らかの対策を講じなければ、一般の方々が想像するよりも早く、衝撃的な変化が起きるかもしれません。これはまさに大規模災害級の人災なのではないでしょうか。当院では、柏崎市や刈羽村へ支援のお願いをしています。手当の削減や新規医療機器の購入控えなど自助努力もしております。外来も整理し、安定期に入った通院患者は域内の先生方の診療所へ紹介させていただき、紹介患者の受け入れや入院による精査治療にシフトしてまいります。研修医・看護師をはじめとした医療従事者の確保は、今後の新潟県の医療を維持していくうえで最も重要なことであり、今後も継続していきたいと思っております。非常に厳しい状況ではありますが、柏崎総合医療センターを今後も維持していくために努力してまいりますので、ご支援のほどよろしくお願いいたします。